

第 81 回

気になる？同期社員との関係性

読者の皆さん、こんにちは。アーク入社 4 年目の S と申します。今回は、気になる同期との人間関係についてお話をいたします。

アークには、地方オフィスを含め、入社時期によって多少変動はありますが、入社後 5 名～10 名程度の同期メンバーがいます。バックグラウンドに社会人経験のある方や学生非常勤から活躍している方もいらっしゃいます。比較的年齢層は広いほうだと感じていますが、いわゆる J1～J3 の年次にかけて行われる社内研修では机を並べ研修を受ける仲間であり、仕事上で同じような悩みを持つ同志でもあります。



年次が浅いもの同士が同一の監査チームにアサインされる機会は少ないですが、同期の活躍や失敗は、

度々同じ監査チームの上司や監査アシスタントから噂話として伝え聞くことがあります。そのたびに、成長速度を競ってしまうのは良くも悪くも人間の性でしょうか。

アークでは、浅い年次から比較的多くのクライアントへのアサイン機会があるため、業種ごとの会計処理に触れることが可能です。また、監査クライアントとのコミュニケーション等基礎的なビジネス能力を習得する機会が保証されています。なお、希望の業種へのアサインをより確実にするために、伸ばしたいスキル(IFRS や IPO など)に応じた研修を受ける機会も整備されています。参加に躊躇してしまう場合には気の知れた同期を誘ってみるのもよいかもしれません。



最後に、同期社員と共に成長していくためには、失敗談の共有が大事になります。経験が浅い年次では、似たようなミスが多く出てしまうものです。同僚の失敗は同程度である自分も起こしう

る可能性があるからです。かつて受験時代に一度間違った問題に対して再度間違わないために分析をしていた方も多いと思います。これは監査業務をしていくうえでも同じです。監査クライアントが作成した資料の計算誤りが見つかった場合、通常失敗してしまった原因を分析し、同様の誤りが発生しないような仕組みを構築するように改善提言をします。この時、同期の失敗談からヒントが得られることがあります。エクセルの関数式の検証が不十分で計算数値が思うように整合しない・・⇒後から上司に指摘されて参照式のズレに気が付く等。そのため、失敗リストは監査クライアントと監査チーム双方にとってリスクの宝庫とも言えます。そんな情報を共有できる“同期”的存在は意外と大きかったと感じています。

アークでは同期に限らず、監査経験を共有できる仲間が多くいます。勇気を出してまずは一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。

